

説教余滴、「ホトトギスの花」2017年10月29日、

橋の上のシンビジウムの花が終わりました。なくなっていた四本立て立てのシンビも帰ってきました。いったいどういうことなのでしょう。これから来年の花時まで置いておくのでしょうか？ 咲くまでの見守りの楽しさもあると思います。それを放棄するには何か事情があるのでしょうかね。

初夏の頃、トンネルの手前、石川家の門前に「差し上げます」と書かれた苗があり、頂いてきて、フラワーポットに植えておきました。秋に咲く「ホトトギス」です。小さくて、綺麗な、可愛い花です。成長が楽しみです。

9月、葉が欠けてきました。虫が食べているようです。だいぶ食べられてしまった頃になってようやく葉裏についている黒地に白もようの虫を発見。数匹は退治しました。そこでハタと気付いた。この虫もようやく食料を見つけて喜んでいるのではないか。名前も知らないが、花が咲くかどうか、無理かもしれないが賭けてみよう、と考えました。虫退治を止めたので彼ら、彼女たちは遠慮なく食べたようです。ほとんど茎だけになりました。10月中旬の朝、茎の先が膨らみ始めています。そして・・・咲きました。たった一輪、かわいい、きれい。26日には二輪目が咲きそうです。蕾は10個ほどあります。この先いつまでかはわかりませんが、相次いで咲いて、楽しませてくれそうです。小学校へ行く道の右側には露地植えが咲いています。

きれいな葉が、全てついていれば階段へ持って行くつもりでした。こんな不完全な姿は見せられない。持って行くのはやめる。そうじゃあないよ、片マヒ希望の会の集会があったじゃないか。

どんな姿でも、花は一生懸命咲いている。誰も見てくれなくても咲いる。真っ直ぐな気持ちで咲いています。階段下に置くことにしました。皆さん、観てやってください。